

令和4年度 東京都立桜町高等学校経営報告（全日制課程）

令和5年3月31日 決定

I 主な取組と自己評価

1 学習指導

学校評価アンケート「本校の学習指導は、あなたの進路希望に対応した、わかりやすい授業になっていますか？」の好意的評価（「はい」「比較的好い」）

1学年：85% 2学年：86% 3学年：71%（前年度との全体比較：78%→81%）

授業規律維持と「分かる」授業の工夫に努めた。タブレット端末使用の1学年の授業やオンライン学習の発信内容や方式の検討、学校内外での学習コンテンツの活用、資格試験対策、個々の受験対策など、生徒を取り巻く学習環境の大きな変化に対応し始める1年だった。

2 進路指導

学校評価アンケート「本校の進路指導は、生徒の適性や進路希望を生かしたのになっていますか？」の好意的評価

1学年：84% 2学年：84% 3学年：75%（前年度比：80%→81%）

- 進学指導研究校の指定を受け、進路指導部を中心とした模試分析会を年1回、学年ごとのケース会議を年1回ずつ開催し、分析結果を教科会で共有し、その後の生徒の学習指導に反映させた。
- 進路指導部が中心となって学年及び各教科が連携を図り、1年次からの意図的・計画的な進路指導体制を構築するための3年間を見通した進路決定計画（案）を取りまとめた。
- 今年度の進路状況：
 - ①卒業生307名中、現役進学者259名、進学率86.3%（昨年度81.8、一昨年度82.0%）
 - ②4年制大学184名（61.3%）、短期大学9名（3.0%）。大学進学準備は41名
 - ③指定校推薦・公募推薦・総合型選抜入試合格 4年制大学合格者中65.5%（R3:65.5%、R2:64%）
 - ④大学入試共通テスト受験者の5年間推移 116名→197名→108名→166名→125名と増加傾向まっ
 - ⑤国公立大の合格者 0名（R3:1）、難関私大・「GMARCH」等の大学合格者 2名（R3:6）
 - ⑥「成蹊、成城、武蔵、明学」「日東駒専」等の中堅私大の合格者 49名（R3:59）
- 1・2学年では、週末課題の定着や土曜日講習の参加者増（予備校講師の英語講習70名受講）

3 生活指導

学校評価アンケート「本校の生活指導は、生徒の基本的な生活習慣を身に付かせるのになっていますか？」の好意的評価

1学年：86% 2学年：83% 3学年：76%（前年度比：85%→82%）

- （1）服装及び頭髪指導、遅刻指導を生活指導部の主導で学年と連携して定期的実施
- （2）マナー向上週間・校門指導週間を全教員指導の下実施。課題のある生徒は各学年数名に
- （3）スクールカウンセラーによる1学年生徒との全員面接も年度当初に実施
- （4）いじめの報告0件。SNS等で不用意な個人情報掲載や中傷表現をしないよう適宜指導
- （5）セーフティ教室（交通安全や薬物乱用防止等）年3回開催。

4 特別活動

学校評価アンケート「本校の学校行事や部活動は、生徒同士が互いに協力し合い、活発に行っていますか？」の好意的評価

1学年：88% 2学年：86% 3学年：75%（前年度比：89%→88%）

- （1）部活動加入率 65%（R3:64）
- （2）文化部：軽音楽部、盛ん。天文部が地域対象の天文観測会を再開。演劇部レベル上がる
- （3）運動部：水泳部・バドミントン部バスケ部。女子バレーボール部・野球部・サッカー部・陸上部等大会参加
- （4）2学年修学旅行 10月に北海道にて実施
- （5）ビブリオバトルには1学年にて校内予選を実施。優秀者2名都の大会に参加。

5 国際理解教育

学校評価アンケート「本校は中国北京市に姉妹校があり、国際理解教育を推進していると知っていますか？」の好意的評価

1学年：83% 2学年：76% 3学年：64%（前年度比：74%→74%）

- (1) 北京滙文中学校との姉妹校提携交流は42周年。例年実施の滙文中学校訪問研修旅行は、実施せず。3月に生徒会役員や「中国語」の選択生徒等を中心に滙文中学校の生徒とオンライン交流実施。
- (2) TGGでの1学年生徒全員対象の英語研修は10月に実施。
- (3) プリティッシュヒルズの英語研修は実施せず。
- (4) 放課後に希望生徒の参加による「イングリッシュ・チャット」開催。

6 健康づくり

学校評価アンケート「本校は健康管理や安全指導に積極的に取り組んでいると思いますか？」の好意的評価

1学年：81% 2学年：86% 3学年：75% (前年度比：87%→80%)

- (1) 定期健康診断の全員受診の後、対象生徒の診断結果への対応も完了。
- (2) 心身の健康を保つため、生徒の様子を日々観察し、懸念事項については担任が把握後、企画調整会議・職員会議での報告、養護主任教諭・SCとの連携の下、適切な対応ができる体制を構築。
- (3) 6月に全生徒対象の体力テストを今年度も実施。その継続的な取組で表彰を受ける。

7 地域連携

学校評価アンケート「本校は地域社会と活発な連携を推進し地域を大切にする校風だと知っていますか？」の好意的評価

1学年：66% 2学年：61% 3学年：54% (前年度比：60%→60%)

- (1) 世田谷区の中学校で実施の出前授業として、10月に駒澤中に校長が訪問。
- (2) 世田谷区の主催する教育ネットワーク協議会に12月に校長が出席し、今後の連携を検討。
- (3) 桜新町商店街の9月の「ねふた祭」にダンス部・吹奏楽部が参加。生徒会執行部が桜新町自治会の古布回収に参加、また放課後の学校周辺のゴミ拾い活動を自主的に実施。

8 学校運営

- (1) 「進路実現の桜町」「伝統ある進学校」という指針や「安全・安心・面白い学校づくり」というコンセプトに基づき、各分掌・学年・企画室の部署が各自のチーム機能を駆使し、組織運営の円滑化を図った。企画調整会議に案件整理・事前協議が進み、職員会議にて全体周知確認・最終判断進む。
- (2) 各教職員のライフ・ワークバランスを意識した校務への取り組みが進み、勤務時間超過者が減少。
- (3) 経営企画室職員は予算執行・学事・契約・給与等教育活動を支える業務の整理進み、勤務時間超過を意識した働き方が定着し、ワークライフバランスの意識向上。

9 広報活動

学校評価アンケート「本校は授業公開・ホームページを始め、幅広く情報発信していると思いますか？」の好意的評価

1学年：81% 2学年：86% 3学年：75% (前年度比：70%→73%)

- (1) 夏期の学校見学会18回延べ1,500名参加 学校説明会4回延べ約1,000名参加、外部説明会10回参加延べ約400名対応
- (2) ホームページ更新回数は300回を超え、学校案内・ポスター発送は109校に

10 校内研修

- (1) 教員向け研修を年間通じ、10回以上実施。(大学入学共通テストへの対応、新学習指導要領に基づく教育課程編成研修、授業力向上のための教員相互の授業見学及び研究協議、タブレット端末活用操作研修、模試分析会、等)

11 デジタル技術を活用した教育の推進

- (1) オンライン学習や調べ物学習等、タブレット端末等を活用した授業展開や教育活動を推進するにあたり、教職員への研修を導入する。
- (2) 対面授業の補足的なICT活用の学習支援として、学習コンテンツの活用を進路部・各学年で推奨。3学年生徒で塾・予備校に通わず、校内の補習・学習コンテンツ活用で、大学合格果たす。

II 数値目標とその達成度

今年度取組目標と方策（数値目標）		成果と課題
1 学習指導	(1) 各学年の2回の実力テスト等での成績の向上率 10%	△ 日常の学習の積み重ねが必要
	(2) 授業外での全生徒の学習時間 週当たり4時間	△ 課題はこなすが、自主学習が伸びず。
2 進路指導	(1) 各学年と進路部にて開催 模試分析会年2回 ケース会議年2回	○ 研修会後も進路部・各学年での連携進む。
3 生活指導	(1) 全生徒「遅刻0の日」年間3回	△ 次年度も継続の課題
	(2) 全生徒「服装・頭髪指導0の日」年間3日	△ 次年度も継続の課題
4 特別活動	(1) 都大会ベスト32進出 3団体以上	△ 次年度も継続の課題
	(2) ビブリオバトル等個人での大会等参加 5人以上	△ 2名の参加
5 国際理解教育	(1) 次年度「中国語」選択者確保 20名以上	○
	(2) TGG・BH等の研修参加者 100名以上	○
6 健康づくり	(1) 体力テスト 前年度比向上項目 2つ以上	○
	(2) 年間のいじめ案件 0件	○
7 地域連携	(1) 地域自治体等の活動に参加 2回以上	○
8 学校運営	(1) 服務事故等学校運営上の課題 0件	○
9 広報活動	(1) 部活動体験・見学会・説明会等来校中学生数 年間で1,000人	○
	(2) ホームページの更新回数 年間で250回以上	○
10 校内研修	(1) 服務防止研修等必要な校内研修 年3回以上	○
11 デジタル技術を活用した教育の推進	(1) ICT機器活用による授業研究協議(各教科で実施) 年2回	○

III 次年度以降の対応策

1 学習指導

- (1) 3年間の進路実現計画(案)を踏まえて、各学年の時期を踏まえた段階的な学習指導の充実を図る。生徒自身が直面する課題・問題を解決する能力を高めるため、日常の授業で自主的な学びの活動や協働を取り入れ、一方的な注入式の授業スタイルに陥らないようにする。
- (2) 授業外学習では課題や習コンテンツを活用した、各自の学びの充実を図る必要がある。

2 進路指導

- (1) 3年間の進路実現計画(案)を踏まえて、各学年の時期を踏まえた段階的な進路指導とフィードバックを重ね、模試分析結果を各学年・教科会で共有し、その後の指導に反映させる必要がある。
- (2) 進路指導部が中心となって学年及び各教科が連携を図り、1年次からの意図的・計画的な進路指導体制を構築し、大学入学共通テスト等入試に対応した指導体制を強化・整備する。
- (3) 「探究の時間」を「探究委員会」で取りまとめ、本校のキャリアデザイン教育の軸とする必要がある。
- (4) 1学年からオープンキャンパス等の活用等を通じて、高大連携を推進し、進学動機づけを図る。

3 生活指導

- (1) 生徒指導指針に基づき、挨拶の励行の浸透、服装・頭髪指導、遅刻防止指導や駐輪指導等を実施し、「穏やかで明るい学校環境」を維持し、基本的な生活習慣の確立を目指す。
- (2) 学校の施設・設備を大切に使うことや校内の清掃を円滑に実施することで、校内環境の改善を目指す。
- (3) いじめの総合対策に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。

4 特別活動

- (1) 学校行事や生徒会活動等において、生徒の主体性や参加意欲、成就感を育て、桜町高生としての自覚と帰属意識を高める。
- (2) 多くの生徒の部活動への加入を推進し、部活動を充実させる。部活動中の事故や体罰防止に努める。
- (3) ビブリオバトル等読書活動・図書館指導の充実を図り、コミュニケーション能力の育成に努める。

5 国際理解教育

- (1) 北京滙文中学校との姉妹校交流や中国研修旅行の実施に向けて、相互交流事業を整備する。
- (2) 2・3学年選択科目に「中国語」の受講者を増やし、多文化理解を推進する。
- (2) 英語教育を推進するために、TGGの活用、ブリティッシュヒルズ研修、ALTやJETの放課後活動、オンライン英会話の活用等、機会をとらえて英語力育成を図る。

6 健康づくり

- (1) 生徒個人の心や体の状況を把握し、発達段階に応じた健康づくり・体力向上を目指す。
- (2) 自殺対策に資する教育を推進する。学業や生活面についての相談活動を継続して行うとともに、家庭と連携して生徒の心のサインを見逃さない生徒指導を推進する。

7 地域連携

- (1) 世田谷区教育ネットワークを活用し、小中高大産との連携を図った教育活動を始める。
- (2) 地域商店街や町内会主催の地域行事、地域美化活動等を通して、地域を大切にする校風を維持する。

8 学校運営

- (1) 企画調整会議前に案件整理・事前協議を行い、企画調整会議にて案件整理・全体周知を図り、職員会議にて全体周知確認・最終判断という進行管理に努める。
- (2) 各教職員のライフ・ワーク・バランスを意識した校務への取り組みを配慮し、各自が校務達成のための時間管理を図れるように助言支援する。
- (3) 経営企画室職員は各分掌・学年からの予算執行の調整を行うとともに、学事・契約等の運営機能が十分支障なく動くように、担当ごとに点検しながら業務にいそしむ。

9 広報活動

- (1) 学校見学会・学校説明会・外部説明会の機会をとらえて、本校の教育活動の発信に努める。
- (2) ホームページ更新回数は300回以上、学校案内・ポスターのデザインを見直し、魅力ある学校をアピールしたい。

10 校内研修

- (1) 大学入学共通テスト対応・新学習指導要領に基づく教育課程編成・授業力向上のための教員相互の授業見学及び研究協議の充実を図る。
- (2) 機会をとらえて、他校の授業公開や研究協議会に参加し、全教職員で授業改善を図る。
- (3) 進路指導・特別支援教育・適切な生徒対応・服務事故防止等に関する校内研修を実施し、全教職員の資質向上と共通理解を図る。

11 デジタル技術を活用した教育の推進

- (1) オンライン学習や調べ物学習等、タブレット端末等を活用した授業展開や教育活動を推進するにあたり教職員への研修を導入する。
- (2) 対面授業と補足的なICT活用の学習支援のハイブリッド体制を組織的に構築する。